

令和4年度第2回堺市博物館協議会 会議録

日時

令和5年2月7日（火）午後2時から4時30分まで

場所

堺市博物館 博物館ホール

出席者

堺市博物館協議会委員

榑亙田佳男副会長、伊藤廣之委員、岡田光代委員、中周子委員、服部倫子委員、村田路人委員、
（欠席：岩間香会長、伊住禮次朗委員、土橋ひとみ委員）

事務局職員

須藤館長、辻尾副館長、増田課長、神原参事ほか

会議録

司会（岸補佐） 定刻となりましたので、ただいまより令和4年度第2回堺市博物館協議会を開催いたします。本日の出席者は、委員9名中6名となっております。過半数の出席をいただいておりますので、堺市博物館協議会規則第4条第1項により、協議会が成立してありますことをご報告いたします。また本日の会議の傍聴者は1名おられますので、ご報告いたします。

それでは、館長の須藤よりご挨拶申し上げます。

須藤館長 本日は令和4年度の第2回堺市博物館協議会を開催させていただきます。榑亙田副会長はじめ先生方、誠にお忙しい中、またお寒い中、ご出席くださいまして誠にありがとうございます。

何度もいってしまいますけれども、本会議は、堺市博物館の調査研究や展示などの博物館活動と、それから、茶室の活用や、無形文化遺産の理解を深めるような事業展開を活性化させるために、それぞれの分野の第一線で活躍しておられる先生方からご意見やご批判を仰いで、活性化に努めるということを目的としております。

昨年の4月から1月末現在で、入館者の数は約10万人です。コロナ禍前の2019年の約4割まで戻ってきました。3月には、5割になってくれることを祈っております。まだまだ、いわゆるコロナウイルスの影響を受けて、我々は脱することができない、そういう状況にあります。

前回の協議会では、10月から12月にかけて開催しました、「特別展 堺と武将—三好一族の足跡—」を展示場でご覧いただきまして、特に連歌などの文字資料の展示のあり方に関して、ご助言をいただきました。連歌を小学校の授業ですか、教材に取り入れたいというそういう提案もございましたし、連歌が茶の湯の美の意識を高めるのに効用があるというような意見もございました。また、連歌に実際に触れるという工夫をしているというご指摘や、一方で、子どもにやさしい連歌の解説、あるいは連歌が

行われている実際の風景と音声を聞けるような工夫があればなあ、というようなご意見もいただきました。

これらのご意見は、今後とも、本館で歴史資料、文字資料を展示する上で非常に重要なご指摘ですので、活かしていきたいと考えております。おかげさまでこの特展は、8,800人の有料観覧者を入れることができました。図録400部を完売いたしました。これは、博物館創設以来ないことでございます。それだけではなく昨年7月から10月にかけて開催した「企画展 人と物が行き交う中世の堺」の図録も800部販売用に作成しましたが、残部25部となり、非常に好評を得ています。このような展示の図録の売れ行きというのはいったいどのように解釈したらいいのかということに思うに、やはりこれまで、等閑視されたというのか、見逃されてきたこの研究分野の対象を取り上げて、そして、独創的というのですか、あるいは個性的なテーマを掲げて、そして卓越した展示の内容構成が、実践されたんだと、その成果によって図録も売れたんだというふうに私は解釈しております。今後とも、この実績を生かせるように、学芸員に頑張ってくださいと思っています。

本日議論いただく主な案件は、この4月にスタートする共同研究、中世世界の歴史と文化の学際的研究についてです。後ほど説明がありますが、「黄金の日日」という小説やテレビで堺の繁栄ぶりがもてはやされてきましたが、実のところ、その客観的、歴史的、経済史的、科学的な検証が十分に行われているとはいいたくないと思います。そこで、本研究では異分野の研究者が相集い、研究を多面的に掘り下げて、関連させることで、中世世界のイメージをより鮮明にすることをめざしております。

委員の先生方からも、じっくりとこの共同研究の意味や、方向性や、説明がありますが、足りない部分のご指摘をいただけたらと思っていますので、先生方のアイデアを拝聴したいと思っていますのでよろしくお願いします。

本会議はいつも時間が短くて恐縮なのですが、先生方からいただいた忌憚のないご意見やご助言、ご批判は、今後の本館の企画や運営に生かしていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。以上です。

司会（岸補佐） ここでご出席いただいております委員のご紹介をさせていただきます。

榎垣田佳男副会長でございます。

伊藤廣之委員でございます。

岡田光代委員でございます。

中周子委員でございます。

服部倫子委員でございます。

村田路人委員でございます。

ありがとうございます。

なお、岩間香会長、伊住禮次朗委員、土橋ひとみ委員におかれましては、ご欠席のご連絡をいただいております。

続きまして事務局職員を紹介させていただきます。まず、館長の須藤でございます。続きまして副館長の辻尾でございます。学芸課長の増田でございます。参事の神原でございます。そして本日司会を務めさせていただきます。ここに課長補佐の岸でございます。他に博物館職員も同席させていただきます。

それではここから榎垣田副会長に議事進行をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

榎垣田副会長 岩間会長の方がご欠席ということで、榎垣田の方で議事進行をさせていただきますと思

いますのでよろしくお願いをいたします。それでは時間もありませんので、ただ今から令和 4 年度第 2 回堺市博物館協議会の議事に入りたいと思います。

それではまず議事の 1、令和 4 年度の事業の中間報告、1 令和 4 年度特別展企画展の状況について事務局からご報告をお願いしたいと思います。

増田課長 それでは特別展、企画展を報告させていただきます。資料 1 をご覧ください。失礼して着座で報告させていただきます。

こちらの方に令和 4 年度の特別展、企画展の一覧表がございます。内容につきましては先ほど館長よりご紹介いただきました通りでございます。特別展が 1 件、そして企画展、特集展示が 4 件ございます。

「企画展 古墳が変わる」そして「企画展 人とモノが行き交う中世堺」は前回の協議会の方でも報告させていただきました。「特別展 堺と武将―三好一族の足跡―」に関しましては、内容につきましても館長が先ほどお伝えした通りでございますが、8,807 人、実質日数が 38 日ですので、1 日当たり 232 人のお客様に来ていただきました。当館としては比較的多い数字かと思っております。

文書中心、記録物中心でありましたが、それぞれ担当の工夫によりいろいろと見やすいような、一般の方々にもなるべくわかるような内容で展示をしてもらいました。ただやはり文書が多いということで、ちょっと内容が難しいかなと心配していたのですが、SNS などを見ると非常に好評いただきました。これだけのものが一堂に揃うというのはすごいというような内容で、特に歴史好きの方、そういった方々に非常に好評を得たのではないかと考えております。

現在行っております「企画展 堺のくらしと風景」は、後ほど皆様にご覧いただきたいと思っております。そしてそれが 3 月 5 日で終了しますと、これは仮称ですけれども「特集展示 郷土玩具」となっておりますが、こちらの特集展示というのは企画展のやや小さなもので、企画展会場の一部を用いる展示になっております。

企画展と企画展を繋ぐ間の展示である特集展示を行っている際の一部閉鎖している企画展会場では、ケースなどの整備などもしていきたいと考えております。博物館の展示会場というのは、皆様ご承知の通り一連の展示会場になっておりまして、特別展会場を別に持っておりませんので、常になるべく何か展示をして企画展として開けておかないと、お客様に U ターンしていただかなければならないという展示会場ですので、担当が工夫しながら、いろいろなものを企画してもらっております。特別展、企画展の報告は以上でございます。

禰亘田副会長 ありがとうございます。ただいまの事務局のご説明につきまして委員の皆様、何かご意見ご質問等ありましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

前回の特別展について今館長の方からも整理がありましたけれども、もう少し言っておきたいことなど何かございませんでしょうか。

中委員 特に質問ではないんですけど、先ほど館長がおっしゃったように前回の会議では、この展示の価値を皆にわかってもらえるのだろうかという不安がございましたけど、図録が完売したということは非常に資料的な価値も高かったのですね、やはり図録を買おうと思うというようにこの博物館にいらっしゃる方は、そういう意識が高い方が多かったということでもありますし、一般受けするかどうかという流行り廃りに迎合するのではなくて、堺市博物館の特色や研究成果を自信を持って示していければいいんじゃないかと思いました。私も前回拝見して非常に感動いたしましたので、図録完売というのは、皆さんの日頃の努力というかご研究の成果が発揮されたのだと思いますので、今後とも、今回のような

展示を期待しますという感想を一言申し伝えます。

榎垣田副会長 ありがとうございます。入館者が 8,800 人で図録が 400 部ということは購入率が 5%弱ってことです。これは以前は確か 10%ぐらいの時代もあったと思うんですけど、今は 5%といえば、結構高そうなのです。ですから完売ってこともありますし、入館者の中でも購入している人が多いということが数字でも何か残ったかな。弥生博は残念ながら 5%は行かないですね。大阪歴博とかいかがですかね。

伊藤委員 私、以前大阪歴史博物館に勤務してまして、一番よく図録購入があったのが「幽霊妖怪展」。これが 10 人に 1 人位でした。通常はやはり副会長がおっしゃったように 5%ぐらいからちょっとよくいって 8%ぐらいまで、7、8%ぐらいで良い方かなと思います。なかなか 10%っていうのはないですね。ということでいうとかなり歴史好きの方が大勢来られて購入されたんだろうなというふうに思いますし、また機会があれば、増刷というか、再版というかいうようなこともあったりしたらいいかなと思いました。

榎垣田副会長 ありがとうございます。他に何かございますでしょうか。

そうしましたら、後半の案件の方でいろいろ意見をお聞きしたいということもございますということもありますので議事の方を進めさせていただきたいと思います。

続きまして議事 1 令和 4 年度事業中間報告 2 の、令和 4 年度の体験学習会の参加人数について事務局よりご報告をお願いしたいと思います。

増田課長 それでは資料 2 令和 4 年度体験学習参加者数をご覧ください。令和 4 年度では、ご覧のように 12 件です。日にち的には多くなりますけれども 12 件の体験学習会を実施しております。

まだ 2 月の「昔の道具・遊びを体験しよう」というのも残しておりますが、これだけの体験学習会を開催することができました。合計で 1,466 人の方にお越しいただいております。備考欄にございます 10 から 12、13 から 16 というのは時間帯のことであります。10 時から 12 時までと 13 時から 16 時まで行ったということになっております。

今年度はこれだけの体験学習会を開催することができましたが、令和 3 年度は 6 件しかできませんでした。11 月 14 日からようやく開催することができて、そして最後 2 月までの間に 6 件の体験学習会しか開催できなかったという状況でございます。今年度は無事にこれだけの体験学習会を開催することができたものです。

裏面を見ていただきますと、この博物館で行う体験学習会以外に、臨時のもの、そして企画展関連体験学習がございますけれども、こういったものも開催することができました。

企画展関連体験学習の方では、残念ながら 18 番の「海から堺の町を眺めてみよう」というのは、雨天のため中止になりましたけれども、無事にこれだけ開催ができて、全部で合計で 2,008 人の方に現在、参加いただいたということで、毎回非常に盛況を得て開催できているという状況でございます。

続きまして、もう 1 件、無形文化遺産理解事業の方もご説明させていただきます。こちらの方は担当しております徐がご説明させていただきます。

徐職員 無形文化遺産理解事業を担当している徐です。会計年度職員ですが、この事業についてご報告させていただきます。失礼ですけど着席して報告させていただきます。資料 2 の補足の資料をご覧くださいのですが、令和 3 年度無形文化遺産理解事業の報告です。まずはこの無形文化遺産理解事業についてご説明させていただきますと、主にアジア太平洋無形文化遺産研究センター、略して I R C I と

いいですが、そのセンターとの協力連携事業です。このセンターについて、この資料にないんですが、口頭で補足説明させていただきますと、博物館に来られるときに職員通用口からお入りになる場合は、守衛室の右手に真正面に看板があります、あの筆で書かれている木の看板ですが、アジア太平洋無形文化遺産センターと書かれているところですが、それがこの施設の I R C I の事務室です。

この I R C I はセンターの英語表記の頭文字をとっているのですが、このセンターは 2011 年日本政府とユネスコとの間の協定によりまして、ユネスコの「カテゴリ 2 センター」として開設されている組織です。日本の組織ですけど、活動はユネスコと協力して行っている意味での「カテゴリ 2 センター」です。その組織は堺市じゃなくて独立行政法人国立文化財機構の一組織です。

活動としては何をしているかといいますと、アジア太平洋地域において無形文化遺産の保護に関する条約があるんですが、条約を促進し、無形文化遺産保護の手段としての調査研究を推進することで無形文化遺産の保護の推進に努めているところです。

主に大学とか研究機関とか地域コミュニティなどと連携しながら、様々な調査研究事業を実施しております。なぜこのような機構が堺市博物館にあるのかと思われるかもしれませんが、日本政府がユネスコにセンターの設置を提案した 2009 年の頃から、堺市としてもまだ当時は百舌鳥古墳群の世界遺産登録をめざしている時です。まだ登録に成功していない時期ですが、その堺市としても有形の文化遺産と無形の文化遺産の総合的な保護体制を整え、人類の文化の多様性を守るというユネスコの活動に賛同して、地方自治体としての国際協力を進めて、または国際的な文化交流を推進したいという考えから、このセンターを設置するならば堺市に来てくださいという誘致を働きかけてきました。その結果として 2011 年に当館に開設されたわけなのです。センターは主にその専門家による研究調査を推進しているんですが、堺市または堺市博物館の活動は主にそれを補うじゃないんですけど、それに対して、市民に向けた無形文化遺産に関する普及活動の役割を担っております。こういう無形文化遺産理解事業ですが、大体無形文化遺産シリーズ展とかセミナー、ワークショップなどの事業からなります。資料の下の表にあるのは、この令和 4 年度の事業なのですが、セミナーとワークショップ合わせて 4 回を行う予定です。既に実施したのは 34、35、36 回のセミナーとワークショップです。2 月 18 日の土曜日に「ミニ緞通を織ってみよう」という事業を行う予定です。もう既に応募が殺到して、定員の 10 人の募集を終わったところです。テーマと概要と講師、開催時間、参加者数とかは資料にある通りですが、一言ずつ加えさせていただきますと、第 34 回のインドネシアジャワ島の伝統芸能に関するセミナーでは、講師は I R C I のアソシエイトフェローで、まさにお互い連携して行ったセミナーです。伝統芸能以外にこのコロナの対策としていかに無形文化遺産関連の知見を活かしてやっているところもありますという報告がとても新鮮でした。そして第 36 回まで既にやりましたが、それと今度行う 37 回はいずれも堺市の伝統産業に関連するもので世界文化の多様性を紹介する異文化理解を進めるというものもあるのですが、私達地元の文化をもう 1 回見直そうというところも重要な意義を持っているという考えから、連続的に地元の無形文化財関連のセミナーとワークショップも開催しています。

そして 36 回、茶の湯に関連するものですが、茶の湯を今まであまり無形文化遺産、無形文化財として考えることはなかったと思うのですが、日本の文化財保護法の改正や生活文化も無形文化財として考えられるというようなことになったこともありまして、それで千利休の生誕 500 周年ということもあり、委員の伊住先生を講師として迎えまして、お茶の稽古と違った、茶の湯の成立までの歴史とか、喫茶文化の歴史を紹介しまして、また有形文化財と無形文化財を繋げて茶室で行った茶の湯体験、これもお稽古じ

やなくて、先生のお茶室に関連する文化の話聞きながら、茶の湯を体験するというセミナーとワークショップを開催しました。意外と大人たちばかりの参加者なんですがとても好評でした。今年の令和4年度の事業としては、残りの37回を開催して終了することになります。以上、ご報告させていただきました。

増田課長 続きまして資料3の学校向けプログラムというのをご覧いただきたいんですけども、この会場の周りを見ていただければわかっています通り、現在小学校3年生対象の学校向けプログラム、学校の団体を受け入れてのプログラムを開催しております。今年度は27校の申し込みがございました。

このホールで昔の遊びを体験していただいて、隣の部屋では昔の道具を解説しまして、後ほど見ていただきます「堺の暮らしと風景」展をいろいろ見学してクイズをしていただくというような内容になっております。

昨年度も説明させていただいたと思うんですが、こういった内容に関しましては、次のページにございますように、小学校の学習指導要領というのがございまして、学校向けの、プログラムは以前から行っています。平成29年の告示によりますと最初でございますように、これまでの古くから残る暮らしに関する道具、それを使っていた頃の暮らしの様子に関する内容を市の様子の移り変わりに関する内容に改め、交通や公共施設、土地利用や人口生活の道具を調べるように示したとございます。

この指導要領に従いまして、堺市の様子の移り変わりに重点を置いた展示になっているかと思えます。その辺りも取り入れておりますので、後ほど見ていただければ、と思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。

榑垣田副会長 はい、ありがとうございます。ただいまの事務局のご説明につきまして委員の皆様、何かご質問ご意見等ございましたらよろしくお願いいたします。

はい。服部委員をお願いします。

服部委員 神石小学校の服部です。本校ももちろん博物館と同じ中学校区内にある小学校ということで早速、来させていただきました。私も追いかけて来て子どもたちの様子を見ていましたが、大変喜んでいました。本校にも一つ歴史の部屋を作っていて昔の道具も置いているのですが、実質やっぱ狭く、一つの教室にいっぱい詰め込んでいて、物は見られるけれども展示の気分を味わえないところまでこちらにこさせてもらいました。今ありましたようにその風景も、一緒に味わいながらこういったところで、こういう道具が使われていたんだなっていうところと結びつけながら学習ができたっていうことで、とてもよかったなと思っています。

そしてこの展示にあたり、社会科でこの子どもたちは学ぶんですけども、学習指導要領まで押さえた上で展示をしていただいているっていうところに、ちょっと感動してしまいました。本校職員も連れて行く際に、そういったところまで、していただいているところに見に行くんだっていうところをもう一度私の方でも伝えて、そして先生たちももう一度そういったところを押さえながら子どもたちを連れて行くっていうところも必要だなと。そうすれば相乗効果高いなっていうふうにはちょっと思いました。そういったところで学校もただ来るだけではなくて、来たときの効果を狙うっていうところの部分は、十分本当にこちらに来させてもらったらあるなっていうふうに思いました。ちょっと感想になりますけれども、ありがとうございます。

榑垣田副会長 ありがとうございます。今のご意見に対して何かありますか。

学習指導要領に基づいてというのは、あらかじめ学校の下見みたいのがありますよね。おそらくそういうときには、館の方からも言ったりしているのですか。

遠藤職員 会計年度職員の遠藤です。元学校職員で学校対応させてもらっています。学習指導要領まで戻っては話をしていませんが、堺の場合、『わたしたちのまち堺』という社会科の三、四年生の副読本があります。その副読本は、学習指導要領に則ってできていますので、その副読本に載っているのに合わせて展示をしていますよ、学芸員さんが考えてくれて展示していますということを説明しています。以上です。

禰亘田副会長 ありがとうございます。

堺市の博物館の方がかなり突っ込んだ形で取り組みをされているのだな、っていうことを今の服部委員のお話で何かわかったかなというふうに私は思いました。ありがとうございます。他に何かご意見等ございます。ご質問とか。

それでは、ここまでで報告につきましては、終わらせていただきたいと思います。

それでは、次の案件に入らせていただきます。案件1「企画展 堺のくらしと風景」について、事務局の方からご説明をお願いいたします。

増田課長 それでは、今話題にしました現在開催しております「企画展 堺のくらしと風景」について、皆様にご議論していただく前に展示場で担当いたしました橋が説明をさせていただきますので、展示場へご移動ください。どうぞよろしくお願いをいたします。

(展示場視察)

禰亘田副会長 それでは、議事の方を再開したいと思います。展示の方の見学、説明も楽しく聞かせていただきましてありがとうございました。

それでは事務局の方から企画展「堺のくらしと風景」についてまだ説明があるのですかね。よろしくお願います。

橋副主査 橋です。先ほど展示をご覧いただきましてありがとうございました。ちょっとバラバラ話してしまったのでわかりにくかったかもしれないんですけども、お配りしている資料3ですね、先ほど少しお話させていただきましたけども、学校対象のプログラムとしまして、展示場、このホール、隣の部屋の道具の解説ということになっております。展示場の方では見ていただくのと同時に資料3の最後につけております、「堺のくらしと風景クイズ」ということで、これは学校に対してだけのクイズをやってもらって、プラス、学校の方でしおり等になんていうか道具の面白いものを書いてみようっていうようなしおりを作ってくる学校もありますので、その邪魔にならない程度の簡単なクイズで子どもたちに展示を楽しんでもらっているという状況です。ありがとうございました。

禰亘田副会長 はい、ありがとうございます。それでは今の、説明も踏まえましてですね、先ほど拝見させていただきました企画展につきまして、委員の皆様方からご感想ご意見等々を頂戴したいと思いますのでよろしくお願いをしたいと思います。どなたか口火を切られますか。中委員からお願いします。

中委員 感想ですが、本当に楽しく拝見しました。子どもだけでなく大人も見ることができますし、お母様や、おばあ様が、お子さんを連れてこられて、私これ使っていたよとかね、そういうことで世代間の話題なんかも出てくる非常に楽しい展示だったと思います。中でも小学3年生の雑誌が。年代順にず

っと変わっていく様子とか、特に戦争という時代を反映している表紙の雑誌も楽しく拝見しました。雑誌の値段が当時のお金の現物を並べて、1冊がいくらだったっていうのを示していたのがリアルで一つ一つ非常に工夫された展示だったと思います。最後に過去だけじゃなくて未来の博物館のあり方の展示で皆さんだったら何を展示しますかっていう、未来への問いかけもあったところが良かったと思います。もっとゆっくり見たかったなと思います。ありがとうございました。

榑垣田副会長 ありがとうございます。多分4時半に終わりますから、終わった後、見学できますね。はい、私もちょっと後で見たいなと思うんですけども、他にご意見は。

服部委員 はい服部です。改めて一緒に回っていただいて説明を聞きながら本当に大人も楽しめるなっていうところもあるんですけども、この展示のタイトルを見れば例えば私が担任だったとしたら連れて行ったらこれは網羅できるなっていうのはわかるんですけども、職員があらかじめ見て、どんなものが展示されていて、どんな工夫がされているかっていうことをわかって連れていくっていうのも大事になって改めて思いました。

そうすると、事前学習のところで想像を膨らませておいて子供たちにイメージをさせていて、実際見てみたときにその自分が思っていた見方、考え方と実際のものとはどうだったかなっていう比較もできるっていうことで、思考が深まるというふうに思いました。教科書に決まっているものを学習していくだけではなくて、その博物館が工夫をして展示しているところ、教師がわかった上で学習をさせて、そういった部分で思考を深めるっていうふうになれば、なおその1日が生きてくるなっていうのも改めて思いました。やっぱりその博物館の思いっていうものを、きちっと受け取って学習する、ことが大事だなというふうに思いました。感想でしたけどもすいません。

榑垣田副会長 ありがとうございます。村田委員、お願いします。

村田委員 私も本当に楽しく拝見しました。既に出ていますように、世代を超えてといいますか子どもも大人もどの世代も楽しめるそういう展示だったと思います。

ちょっと脈絡なくいくつか感想なのですが、一つはですね、堺市も段々発展して行って範囲が広がっていきますね。それは図示もされていたんですけど、そうすると堺といっても、古くから発展していた中心部と、農村部とがあるわけですね。今回の展示を見ていると大体都市部というか、中心部に住んでいる人たちの生活の変遷という、そんな感じがしました。

ですから、もう少し堺市を構成している農村部分ですね、田舎の方の暮らしも反映するような部分があってもいいのかなというふうの一つ思いました。

それから、近代以降の歴史をたどるような形になっているわけなんですけど、子どもを対象にどこまで理解させることができるのかという大きな問題があるかと思います。例えばですね、戦時中の展示がありましたけど、その中に堺の市役所が昭和19年でしたですか、できたという話があってその周辺のところまで空襲の話に関わるような展示もありました。そうすると例えば素朴な疑問として昭和19年にできた堺市役所が空襲に遭ったのかどうかとか、焼けたのかどうかとかですね、そんなことを思ってしまうかと思うんですけど、その辺のところは説明なくそのまま過ぎ去ってしまうという感じだったと思います。ですので、堺市役所が出てきたのだったら、それが空襲でどうなったのかというふうな、素朴な疑問に答えられるようなところもご説明が必要かなというふうに思いました。とりあえずそれぐらいのところです。

榑垣田副会長 ありがとうございます。委員の先生方一人ひとりのご意見を多分聞きたいと思っております。

で、伊藤委員の方からお願いします。

伊藤委員 伊藤です。多くの委員の方がおっしゃったように、学校団体の利用だけではなくて、大人という視点で見ても、いろんな世代ごとの感覚で見ても見入ってしまうところがあります。展示全体としてはいろんな層の人たちに興味持たれる内容になっているなあ、という感じがしました。私の個人的なところでいきますと、写真がかなり面白いと感じまして、市役所が持っている広報の写真とかもずいぶん活用されているようでした。今後はそういった市が持っている写真のデータベースとかも、ひょっとしたらもう既にこちらの方に収集されているのかもしれませんが、共有財産とされたらいいかなと思います。それからさらに一歩進めていうと大変なんでしょうけども、市民の方がお持ちの公開していいようないろんな昔の写真とかっていうのも、こういう機会に声をかけられて少しでも収集して、それがまた展示にも活用されていくというようなところも今後あってもいいのかなということを思いました。以上です。

禰亘田副会長 はい。ありがとうございます。では岡田委員お願いします。

岡田委員 岡田です。単純に楽しい展示でしたし、見る年代によっていろいろ感想は違うかと思います。いろいろご意見出たことと同じなんですけども、私の方から2点感想です。

一つは、もっと地図が欲しい。ざっくりとした何だっけ、堺市の合併の様子みたいな、極めてざっくりした地図はあったんですけども、明治の頃の地形図とかありますよね。海岸線なんて全然変わっていますし、本当、堺の中心部以外は田んぼだらけだし、そういう過去の地形図と、‘ちゃんとした’っていうとおかしいですけどもね、どういうふう在宅地開発されていく、どういうふう、ここ何年ごろに鉄道が通っていくとか、海岸線はどう変わるってすごくわかりやすいので、そういう地図を並べて大体堺の方が見に来るんでしょけれども、同じ堺の方でもやっぱりわかんないところってあると思うのですよね。なので、やっぱり、これはここですという、ちょっと位置がわかるような展示も欲しかったと思います。あと、地図に限らず航空写真なんかも、国土地理院でいろいろ今見られますので、そういうのも使えるかなという。特に今回ちょっと地図がないよねっていうのはちょっと感じました。

もう一点、小学生なのでどうかなと思ったのですが、堺県の話が更々出てこなかったなど。学制のところ堺県庁のところに二つは展示してあったのですが、そこでちょっと堺県の記述というか、県庁所在地だったのだよっていうのがなかったのがちょっと残念というか寂しかったな、というのが感想です。以上です。

禰亘田副会長 はい、ありがとうございます。

そうしましたら、私の方からも若干感想ということをお話させていただければと思うんですけども、他の先生方がご発言された通り、大変興味深く見させていただきましてありがとうございます。

それです、せつかくこういう企画展をされているので何か残るもの、なかなか大変なのかもしれませんが、例えば見開きでもいいのでそのリーフレットみたいな形で残せないかということをお話しました。先ほども出ていましたけど、『小学校3年生』あの雑誌の展示は今回の展示の中でもものすごくオリジナリティがあって、かつ重要だと思うんですけども。

結局博物館の場合には展示は後に残らないですよ。何か残すようなものを作ると、学芸員の仕事を増やしますので良くはないんですけども、何かちょっと形に残るような工夫みたいなものができたらということをお話しました。

それから冒頭の写真は非常に私も興味深く見せていただいたんですけど、あれ説明いただいたものって

キャプションありましたかね。あれ、どっかにあったでしょうか。

橘副主査 タイトルは小さく書いてあるのですが、詳しい話しは書いていません。

禰冨田副会長 日にちとかね、あれなんかやっぱり故事来歴っていうことになるの説明はぜひ入れてほしいなということを思いました。

それから年寄りですから、キャプションで遠くに置いてあったやつがあるんですね。老人には見にくいので、前の方に置いていただくとありがたいです。子ども対象の展示ですけども、やはり楽しむのは老人もいるとなると、年寄りを意識して配列っていうんですかね、そういうのも少し工夫していただくとありがたいかなというふうに思いました。すいません。なんか余計なことだったかもしれませんけれども、大変興味深い展示だったかなというふうに思います。ありがとうございました。

他に何か、言い残したこととかございましたら補足していただければと思いますけども、よろしいでしょうか。岡田委員。

岡田委員 たいしたことではないんですけど、これクロスワードを完成させても何もないんですけど、というお話だったんですが。それはあまりかなと思ったんですけど。何かこう、簡単な、なんていうんでしょうね、ミュージアムグッズの中でもちょっとお安いものとか、そのものはちょっとどうなんですか。予算の問題もあるんですけど、そういうのは不可能なんでしょうか。何もないではせめて何か記念に何かどうなんでしょうかね。

橘副主査 博物館に入ってこの企画展だけじゃなくて他の普通の常設展の方のクイズもやっけていまして、そちらの方のクイズでは、全部解いたら「しおり」を渡しているんですね。今回の企画展のクロスワードに関してもそこまでちょっとできたらよかったですけど、ちょっと手が回らなくて、今後考えます。ありがとうございます。

禰冨田副会長 村田委員お願いします。

村田委員 ちょっと細かいことなんですけど、展示の中に騎兵第四連隊の施設のことがちょっと書いてありました。あれは大阪の天王寺区の今の真田山公園にあった騎兵第四連隊が、金岡の方に、昭和の初めでしたですかね、移転してきたことかと思いますが、その辺はすごく唐突でした。何かもう少し説明をする必要があったかなと思いました。それから、そこに発掘のその出土品がちょっと出ていましたけど、あれはその騎兵連帯関係のものでしたですか。

橘副主査 陸軍の関係の資料って感じですかね。陸軍病院のお茶碗と陸軍って書いている瓶なので陸軍関係の資料だろうと思います。

村田委員 騎兵第四連隊とは限らないということですか。はいその辺をちょっともう少し説明があった方がいいかなと思いました。ちょっと細かいことなんですけど。

禰冨田副会長 はい、ありがとうございます。よろしいでしょうか。

はい、ありがとうございました。全体として大変楽しい重要な面白い企画であったと思います。展示手法等々につきましてはですね、子ども対象ということもあったとはいいつつも、もう少し展示に説明があってもいいのではという意見もありましたけども、その辺はご担当される学芸員の方の、忙しさとかですね、いろいろあると思いますので、次回以降、もし改善することができるのであれば、今日のご意見を踏まえて、全てやっていたら身体的にというか、時間的にも大変なことになるかもしれませんので、少しでも改善するところがあれば改善していただく形で進めていただければ、と思います。

またデジタル関係で写真資料の収集は、博物館の業務として重要なことだと思いますので、そういった

ことにつきましても、今後の館全体での話になると思いますので、学芸課の中で協議をされて計画的に収集ができるのであればそれならいいのかな、と感じた次第でございます。はい、ありがとうございます。

それでは次に案件の2ということで、「堺の中世共同研究の発足にあたって」について事務局の方からご説明をお願いしたいと思います。

堀川副主査 学芸員の堀川と申します。資料4をご覧ください。令和5年度から実施を予定しています中世堺の歴史文化に関する研究についてご説明いたします。すみません、以後着座で失礼いたします。この取組は堺市博物館が主体となり、次年度予算により実施する予定です。本日は、まずは簡単な概要の説明とさせていただきます、4月以降に実施します次回の博物館協議会におきまして具体的な内容を説明させていただきますので、ご了承をお願いいたします。

では、資料の項目に沿ってご説明いたします。

1 趣旨、堺市の通史を語る際、重要な位置を占める中世堺の歴史文化について、本市学芸員がそれぞれの専門性に基づき、外部の研究者とともに調査研究を深め、有形無形の資料情報を体系立てて整理することを目的とする、としています。堺は日本でも類まれな歴史の奥深さを有しています。旧石器から近現代の各時代で存在感を示してきた堺の通史において、とりわけ今回は堺の中世の時代に焦点を当てた研究を行います。これは次の2内容でも説明しますが、(仮称)堺ミュージアムに関係した取組です。

次に、内容についてです。現在検討を進めている、(仮称)堺ミュージアムに関して、新施設における具体的な展示イメージに結びつけることを念頭に置きながら共同研究を行います。海外を含む他地域との交易も含めた堺の通史、各時代の展示計画の土台となる学術的かつ最新の調査成果を蓄積します。全体会、分科会では本市学芸員と外部研究者による発表、討論、現地調査や研究を行います。そして研究成果物としては、論考を年度末に発行しております『堺市博物館研究報告』などへ掲載を予定しております。

(仮称)堺ミュージアムについては、現在堺市博物館学芸課が中心となり検討しています。百舌鳥古墳群をはじめ堺が誇る多様な歴史文化を学び体感できる環境を整え、大仙公園エリアの魅力をさらに高めるため堺市博物館や堺 アルフォンス・ミュシャ館などの様々な機能の集約を検討しています。

新たな施設における展示のイメージに結びつけることができるよう、堺市博物館学芸員が中心となり専門性、知識、意見を出しながら、外部の研究者の力も借りて共同研究を行います。

全体会、分科会など具体的な進め方については、最後6スケジュールのところでご説明いたします。

研究を進めるにあたって中世堺を研究する際の前提としましては、地域としては堺環濠都市遺跡、SKTと略称しておりますけれども、SKTを中心とする地域、時期としては応仁の乱の始まる1467年から大坂夏の陣の1615年までを想定しています。一般に中世というと鎌倉時代、室町時代、戦国時代を指しますが、今回の研究会で対象とする地域、時代区分としては、より限定して考えています。

研究会の方向性としては、「黄金の日日」と呼ばれ、繁栄した中世堺の実態を明らかにするという事です。

「黄金の日日」とは呂宋助左衛門を主人公とする昭和53年の大河ドラマのタイトルです。海外貿易で大いに繁栄した中世堺を活写しているということで、40年以上たった今でも枕詞のように使われます。千利休や織田信長といった人物が活躍した16世紀後半頃の話なのですが、展示向きの資料が少なくイメージが先行してしまっているということがあります。

今回の研究会では、そうした時期の堺の歴史文化の姿を少しでも明らかにしたいと考えていますので、

地域としては会合衆（かいごうしゅう）を中心とした町が形成された、いわゆる堺環濠都市遺跡を中心とする地域。時期としては始まりは堺が貿易で栄えるきっかけとなった応仁の乱。この応仁の乱をきっかけにして、それまでは兵庫津を発着港としていた遣明船が堺に拠点を移すことになります。なのでそれを始まりにし、終わりは中世の都市の姿が燃えて消えてしまうということになる大坂夏の陣の前哨戦、そこまでと設定しています。

次に3名称についてです。名称は（仮称）「共同研究『中世堺の歴史文化に関する学際的研究』」としています。

4 期間、令和5年の4月1日から令和8年3月末までの3ヶ年です。

5 参加者としては、内部委員、外部委員、特別委員という区分けにしていますが、内部委員については本市学芸員が当たります。外部委員の研究者の方々はまだ人数も確定しておりませんが、私ども博物館の学芸員から共同研究の趣旨などの説明を行い、依頼を開始しているところです。

本市学芸員の内部委員につきましては学芸課の学芸員5人として学芸課長と宇野学芸係長、海邊推進係長、渋谷学芸係副主査と、そして私堀川、それに加え文化部文化財課学芸員2名の計7人を予定しております。

次に6スケジュールについてです。

まず今年度中に2回、事前検討会を予定しております。

先月末、1月30日には次年度から実施する共同研究の事前検討会を実施しました。館長、副館長以下、当館学芸員11名と文化財課で発掘を担当している学芸員2名が参集し、またゲスト講師として、当館で長らく堺の歴史について研究してきた吉田豊氏を迎えました。その際にはまず吉田氏に基本図書である昭和5年に発行された『堺市史』の問題点をご指摘いただき、それぞれの学芸が問題とするところについて、また研究会の進め方について意見交換をいたしました。今後、今年度中には3月に第2回の事前検討会を予定しています。

そして来年度4月以降には大きなテーマを設定し、全体会を開催し、必要に応じて分科会を設置します。

各全体会・分科会では内部委員と外部委員により、発表や討論、現地調査や研究を行います。

その成果については、毎年度末発行の研究報告に論考として掲載することは、先に申しあげました通りです。

今の予定では、全体会では年5回程度、各日2名が中世堺についての研究発表を行い、それに対して内部委員、外部委員によりディスカッションをすることにしています。

分科会も現時点では三つ予定しております。一つは考古分野において堺環濠都市遺跡の遺構や遺物について検討するもの、一つは堺の町を描いた最も古い絵画作品である住吉祭礼図屏風について美術史的、民俗的な観点から検討するもの。

もう一つは、中世に京都と繋がりのあった寺院に伝わる仏像調査を通じて中世堺に集まった寺院について考えるもの、そして文献の分野では中世堺に関わる未翻刻史料について検討・研究していく予定にしています。

分科会の成果は、全体会で発表することを予定しています。

この共同研究自体は3ヶ年の計画ですので、1年目の年度末にあたり令和6年3月には次年度以降の研究会の進め方について検討していく予定です。

皆様には冒頭にもお伝えしました通り、中世堺についての共同研究は次年度予算でありますので現在ま

だ準備中のことも多く、概要等しか説明できない状態であることを申し添えて申し訳ございません。よろしく願いいたします。以上です。

禰亘田副会長 ありがとうございます。この財政状況の厳しい中で、(仮称)堺ミュージアムにおける展示の構成を考えるとということが目的のようではけれども、新たにこういう調査研究事業を立ち上げられたことは大変意義深いことだと思います。大変重要な取組を、これから3年間されるんだということをおっしゃった次第です。そういう中で今詳細なご報告がございましたけれども、大変重要なことですので、それぞれの委員の立場からこのご説明につきまして、ご意見を頂戴したいと思っておりますので、どなたからでも結構ですのでよろしくお願いしたいと思います。

では、村田委員よろしくお願い致します。

村田委員 一つ、この(仮称)堺ミュージアムですね、これについて先ほど簡単なご説明はあったんですが、もう少し具体的な、詳しい説明が欲しいと思いました。

神原参事 それでは学芸課参事の神原の方からご説明いたします。仮称(仮称)堺ミュージアムについて、堺市がそれぞれ計画等で公表してきた経過につきましてご報告をさせていただきます。

まず2020年、令和2年3月ですが、当時ですね、世界遺産登録に向けて堺は取り組んでおりまして、そのときに堺世界遺産魅力創造ロードマップというものを公表いたしました。

そのロードマップといいますのが、大仙公園周辺エリアの将来像やコンセプト、その実現に向けた主な取り組みのロードマップを示したものでございます。その中で2030年度に向けた中長期的な展望として、(仮称)堺ミュージアムも紹介したというのが一番早くに外部に発信されたものです。その内容につきましては、旧府立大阪女子大跡地を候補地としまして(仮称)堺ミュージアムの整備を進めることにより、来訪者に古墳群の価値や魅力を伝え、ミュシャ作品等美術作品の展示機能の整備を進める。これらにより堺が有する歴史文化資源を一体的に発信し、集客力を高める。また、(仮称)堺ミュージアム等の施設を含めた大仙公園周辺エリアに民間活力を導入し、さらに魅力を向上させるという中長期的な展望として市として方向性を示したところでございます。続きまして令和3年3月に「堺市基本計画2025」で公表した内容につきましては、この計画自体が、めまぐるしく変化する社会経済情勢を的確に捉えまして、将来にわたって持続可能な都市経営を推進することを目的に、堺市が今後5年間、この時からですので2021年から、2025年に本市として取り組むべき方向性を示した都市経営の基本となる計画でございまして、こちらの方で示しているこの堺ミュージアムということにつきましては、百舌鳥古墳群をはじめ、堺が誇る多様な歴史文化を学び、体感できる環境を整え、大仙公園エリアの魅力をさらに高めるため、博物館や堺アルフォンス・ミュシャ館などの様々な機能を集約した(仮称)堺ミュージアムの整備に向けて取り組むという方向性について、この堺市の公表後、コロナ禍によりまして、住民の命や暮らしを守る事業というのが、本市にとって急務ということで、そちらの事業の方が主として中心的に取り組むことになりまして、大仙公園を中心としました多くの事業につきましては、具体的な事業として進めていくことが難しい状況でありました。堺ミュージアムにつきましては市内による検討は進めておりましたが、こちらも具体的な事業とか、予算化をするということは、できない状況でありましたが、市内の議論を経まして、今回ご提示させていただきました、中世堺の歴史文化に関するこの研究を進めていこうという方向性がまとまりました。これにつきましても今年の1月に報告されました「堺市基本計画2025」の中間報告で、(仮称)堺ミュージアムの整備に向けての方向性を現在検討中であるということで進めております。

先ほども報告がありましたけども、今月から開催されます令和5年第1回堺市議会定例会におきまして、令和5年度の事業や予算等が審議されていく中で、今回説明をさせていただいておりますこの研究事業につきましても議論される予定となっております。

以上、概略でありますけども、これまで本市が堺ミュージアムについて公表してきたこと、取り組みとして進めてきたことについて、説明をさせていただきました。以上でございます。

榑垣田副会長 ありがとうございます。それらを踏まえまして、村田委員何かありますでしょうか。

村田委員 もう一つご質問なのですけど。大体イメージはできたんですが、この共同研究ということだけに関していいますと、今回3ヶ年計画で共同研究をやるわけですね。それでその堺ミュージアムは2030年度でしたですかね。そうするとこの共同研究は、まずは中世堺ということで始まって、それが終わるとまた次何か始まるというようなそんな計画なんですか。

神原参事 神原の方がお答えさせていただきます。今回市として進めていく大きな方向性としましては、この共同研究をまず中世の部分について市として通史のミュージアムを整備していく中で重要な役割を占めるということで、まずは調査研究を進めていくことが優先されるというふうに考えております。また、この研究成果に伴いまして、堺ミュージアムについてのいろんな整備方針についてもだんだん明確化されていくことになると考えて、博物館の中、ミュージアムの中で展示されていくものと。整備についてもですね、どのように進めていくのか、市として検討を進めていくこととなりますので、その進捗状況に合わせてプラス、どのような研究が必要かということも議論されていく中で、またこの協議会も含め先生方のご意見をいただいくというふうに考えております。以上です。

榑垣田副会長 ありがとうございます。それでは他に、ご意見、ご質問等、ございますでしょうか。伊藤委員お願いします。

伊藤委員 伊藤です。新しいミュージアムに向けた動きの中で、こういった調査研究が立ち上がり、非常にいい方向で動いているのかなと思って拝見しております。ちょっと大きなミュージアムですと10年ぐらいかかるような流れになりますので、基本構想から計画・設計とか考えると、そんな時間がないのかもと思いつつも、最初のこの研究会でいろんな情報が収集され整理されていくというのが多分大切だろうと思って聞いておりました。それで一つはこれはもう当然のことだと思いますけれども、こういった研究会の内容というのができるだけ市民の方向けにいろいろと講演会とか講座という形で逐次公表されながら、市全体として、市内部だけじゃなくて市民も含めて、期待の醸成とかですね、いろんな声を聞いていくような場にもなっていくんじゃないのかなと思います。そういったことが重要かなと。もう一つ思っていたのが、堺市博物館も歴史のある博物館ですので、OBの学芸員の方の中にもいろいろと見識とか蓄積を持った方がいらっしゃるの、そういったOB学芸員の結集といいますかね、できる方については力を合わせてみんなでやっていくんだということをされたら、さらに情報が集まってくるのかなというふうな思いはしておりました。

吉田さんとかの名前も出ていましたので、なるほどなと思って納得してお聞きしておりました。以上です。

榑垣田副会長 ありがとうございます。岡田委員お願いします。

岡田委員 ちょっとお伺いしたいのですけど、(仮称)堺ミュージアムというのは、例えば博物館法に則ったちゃんとした博物館、あるいはミュシャなんかもということなので美術館として整備されるような施設なのですか。そうすると、収蔵庫の問題とかもいろいろありますけれども、もちろん人材、人も

要りますし、なのか、単なる堺ミュージアムという名前の展示場にすぎないのか。すごく意地悪ないい方ですけども、その辺りは計画をちょっと教えていただければと思います。

神原参事 はい、お答えさせていただきます。私ども堺市がめざしておりますのは、博物館法に基づく博物館ということで公開承認施設まで将来的にめざせるものを整備していきたいというふうに考えております。その公開承認施設をめざすレベルまでの博物館を構築整備していくためには、まずは学芸員を含めた人材育成も不可欠だと考えておりますので、建物や博物館の内部の展示物以外にも、人材育成なども含めて、この事業の方を進めていきたいというふうに考えております。以上でございます。

辻尾副館長 博物館副館長の辻尾でございます。ご意見ありがとうございます。追加でご説明申し上げます。

今、岡田先生がご質問いただいたことはまさに私どもも、この堺市博物館が中心となり堺市がどういったものを必要としているのか、今議論しているところでございます。明確なものは、基本設計などの形で示す中で、ご説明を改めてというふうには思っておりますが、神原からご説明をさせていただきました「人材育成」については私どもが一番大切に考えているところでございます。

今日、橘からのご説明をさせていただきながら、皆様に展示をご覧いただきましたように、私ども堺市博物館の中で学芸員一人ひとりの専門性の高い研究、それから展示、そして収蔵品や様々な資料の保全というようなところは今後どのような形でこの博物館の形が新しい施設に移ろうとも変わらない根幹であると考えております。

あとはミュシャ作品などは、ただいま堺市駅にございます堺 アルフォンス・ミュシャ館という別の施設にございますが、可能であるならばそちらの施設も博物館・美術館というような一体的な施設として兼ね整えることができないかというようなこと、そしてこちらの現建物に関しての利活用、そういったところも全てこのミュージアムに関しての考え方、ということで検討しているところでございます。

そして1月31日付で堺市から令和5年度の組織の改正ということで、案がホームページにも掲載しています。その中には堺市博物館の組織が、正式な名称は「歴史遺産活用部」ということで、新しい組織として一体的な考え方のもと、この堺ミュージアムをより具体的に推進してまいります。

その中でこの学芸員の人材育成を含む機能の一体化、そして堺市の歴史文化の資源のさらなる活用発信、こういったところにも取り組んでいく予定にしております。ですので、今はまだご説明するのがこういう口頭ベースの、文章になってない形で、非常にわかりにくいところもあるかとは思いますが、先生方が考えていただいているような、どういった新しい施設をこの堺市博物館が考えているのかというようなところについては、具体的なご意見、アドバイスもいただきながら、せっかく作るのですから堺市民にとっても堺市博物館に期待してくださる皆様にとっても一番よい施設を作っていきたいと思っております。ぜひお力添えいただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

禰亘田副会長 すいません。ちょっと私の方から質問なんですけども、まだ決まっているのかどうかわからないんですけども、2030年度以降は堺市ミュージアムと堺市博物館が二つが両輪となって維持を継続して、この普及啓発活動をやっていくというイメージなんですか。それとも、展示機能と、何か役割分担をしてこの2館が行くのかとか、その辺のイメージっていうのはもう決まっているのでしょうか。

辻尾副館長 ただいま禰亘田先生からのご質問いただきました件に関しましては、まだ明確に決まっております。ご不便です。「堺ミュージアム」という考え方が、建物をイコールで示すものではなく、「堺ミュージアム」という概念そのものを示しております。その中に施設がそれでは何館存在するのか、そして先に神原

からご説明いたしましたようにそれでは場所はどこに建てるのか。令和 2 年の段階では旧女子大跡地という具体的な名称も出ております。ですので、こちらの建物を新しい建物とともに並行して使っていくのか、はたまたもうこちらの建物をもう潰してしまうのか、こちらの建物も何かしらの機能を残しながら新しい施設をメインで使っていくのか、そういったことも全て費用面そして立地について、様々な視点から検討しているところでございます。

榑冨田副会長 ありがとうございます。よくわかりました。そうしましたら、他にご意見ご質問等ございますでしょうか。

また、ちょっと質問で恐縮なんですけど、先ほど村田委員のご質問にもあったんですけども、今回これが堺ミュージアムの展示機能云々ということで、その共同研究が行われてるってということになりますと、先ほどの堺ミュージアムのご説明でもですね、世界遺産との関係っていうのがありますと、百舌鳥古墳群についての共同研究も行われるかもしれないなとか思うんですが、何かその辺のところはいかがなんでしょうか。

増田課長 今この中世堺の研究会が出てきたというのは、今まで世界遺産の関連で古墳に対する研究はある一定の形、成果も出てきたと。そしてまた本庁にございます世界遺産課でも、まだまだ続けて研究ないし啓発活動をずっと行っておるということがございまして、まずは少し遅れております中世研究について、ちょっと力を入れようではないかということでございます。当然また新しい博物館、堺ミュージアムが開設される時は、おっしゃったようにもう一つの柱であることは確かですので、今のままそのまま移行するというんじゃなくともっと深めた内容にしていかなければならないということですから、新たな研究会を立ち上げたりだとか、そういったものがどういった形になるのかわかりませんが、そういった活動もしていかなければならないだろうとは我々も考えております。以上でございます。

榑冨田副会長 ありがとうございます。この展示をめざし、展示という形で結集していくということになりますと、先ほど伊藤委員もおっしゃいましたけど、結構、時間的にタイトというか、厳しい面もあるんじゃないかなというふうに思いますので、これ結構大変だと思います。大変な中で、予算も限られる中で、一定の成果を出さないといけないっていうところもあって、担当される方々にとっては、楽しい面もあるんでしょうけれども、結構これは厳しいのかな。いや大変なお仕事をされるんだなということに改めてですね、私自身は認識をさせていただいたんですけども。展示の関係ということになると、専門的なことだけではないかな面なんかもあるんだろうなとかいう、いろいろ思ったりもします。

中委員とか服部委員の方から何かご質問とかご意見とかございましたらお願いしたいなと思うんですがいかがでしょうか。中委員はい。

中委員 まだちょっと私もイメージが、やはりつかみにくいものがあります。今ある現状の施設がどうなるのかとか、それらを総合するとどういうふうになるのかっていう点です。しかし、そういう箱物作りが先行したり、予算が足りないからということで計画が進むことが多いのが一般的ですけども、この堺市博物館では、さすが研究を優先して、こういうふうには内実をまず固めていこうという姿勢は素晴らしいと思います。しかも古墳に関しては既にある程度の成果があるので、今度は明らかになっていない堺の中世史に焦点をあてて、堺といいますと、やはり中世という時代が重要だと思いますので、そういったところから実質的な本筋から、取り組んでいかれるのが非常に意味があると思しましたので、本当に感想になってしまいますけれども、大変な中でも堺市民にとっても意味のある施設になることを祈っております。これからもいろんな議論が行われていくと思いますので、頑張ってくださいと思います。

榑冨田副会長 服部委員お願いします。

服部委員 私も学校の立場からでしか意見とか感想を申すことができないのですけれども、本校も来年度から新しく旭中学校群ということで、2小1中として小中一貫教育を推し進めていくってということで、先日も報道発表があったのですけれども、本校の群では、取り組みの柱として地域資源を生かして総合的な学習の時間を中心として、子ども堺学カリキュラムの編成実施というものを掲げております。本校の教育目標としましては「自ら課題を見つけて仲間と共に未来を作り出す子どもの育成」ということで、その軸となるテーマとしてその地域資源を活かすということをしています。

この「子ども堺学」を軸としているっていうのは、まさしくその博物館さんにお力を借りることも本当に多くて。私達はちょっとまだ勉強不足ですけども、地域資源のことをしっかりと学んでやっていこうと思います。博物館さんとか地域の方々の資源を活かす、そうすると先ほどのご意見の中に学芸員さんの人材育成についていうふうについておられたのが、すごく私にとっては心強いなと。

やはり箱物先行ではなくって、中にいる人たちの思いや願っていうものそれを未来を担う子どもたちが受け取って、それを自慢できる子どもたち、自分たちの地域、堺というものをどこに散らばっていても語れる子どもたちっていうのをめざして、やっていこうと思っていますので、すごく楽しみにしています。また、子どもたちを使って何かその資料の提供ができるようなことがあったら何でもお手伝いできます。子どもたちっていうのは本当に率直な意見を持っていて、本当に疑問だらけでたくさん知りたいこと、いっぱい秘めています。子どもたちが活躍できる場もあればと思っておりますので期待しております。よろしくお願いします。

榑冨田副会長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。岡田委員お願いします。

岡田委員 またちょっと意地悪なことをいうかもしれませんが、このプロジェクトというか、研究とか、環濠都市堺の応仁の乱から夏の陣までの研究についてです。面白そうだなと。これはこれで素晴らしいなと思いつつ、中世堺といったときの堺ってあくまでもこの環濠都市堺ですよ。今の堺市の中ではほんの一部ですよ。なので、そのことは、意識しておかないと、という変な言い方ですけど先ほどの展示の話のところもありましたけども、都市部だけじゃなくて、もう圧倒的農村部なわけです。

私自身は江戸時代をやっていますけれども、例えば江戸時代のここ（博物館のところ）は堺じゃないんですよ、大鳥郡夕雲開であって、ここでは包丁も作ってないし、鉄砲も作ってないし、みんな田んぼして綿を作って木綿を織ってなので、江戸時代でもほんの一握りだけが堺で、堺奉行支配下にある堺だけなんです。ということもどこかで意識しつつというか、そういう中世栄えた、南蛮貿易で栄えた堺の後背の農村部って、逆に私はそことどう関わっていたんだろう、この辺の人は南蛮人を見たのかなと単純に思ったりするんですが、そういうところもどっかで忘れないでいただければなという、ちょっと意地悪な意見かもしれませんがと感じたところです。以上です。

榑冨田副会長 ありがとうございます。

いろんな意見をまずこの場ではいうことが我々の役目だと思いますので、いかがでしょうか。逆に、事務局の方から何か、確認しておきたいようなことがあれば。堀川さんですか。

堀川副主査 はい。今、岡田先生がおっしゃっていただいたことは、もっともでありまして、堺の歴史といたしました時の中世部分としては、やっぱり堺市域を全部カバーしなければならないというふうに考えています。また今のこちらの博物館の現状でいいますと、ここが建った時は、美原区はまだ市域ではございませんでしたので、そちらへの目配りも必要であると認識しています。

この中世の研究会について地域設定を考えておりましたときに、はじめは、市域全体を含めてとじていたんですけれども、それでは3ヶ年の間で一定の成果をと、というのは非常に難しいのではないかなという意見が出ましたので、今回はSKTと称する旧堺市地域に限ってということとやっております。またこの研究会に限らず堺市博物館では、その都度企画展や特別展という形で例えば私、仏教美術を専攻していますけれども、南区鉢ヶ峯にあります法道寺の文化財を紹介した展示をしておりますり、また文献の渋谷学芸員は南区の和田（みきた）文書を取り上げる展示もしておりますので、そういった広い視点から堺の中心部を見て、またそこをやった上でまた周辺地域に返していくという、そういう作業は必要ではないかなと思っております。以上です。

榎垣田副会長 ありがとうございます。

矢内主幹 学芸員の矢内と申します。先ほど岡田先生からご指摘があったことに堀川の方からお答えさせていただきましたけれども。ちょっと私の方から補足しますと、中世の堺の中心部に集まってきた商人たちですけれども、大饗（おわい）という屋号をつけた大饗屋とかですね、あるいは我孫子屋とか、あるいは野遠（のど）屋とか、もうまさしく堺周辺の地域に出自を持つことが明確な商人たちが当然集まってきているということもございます。そういうところも意識しながら一つの場としてこの範囲を考えていこうということとございますので、当然周辺部に対する重要性という共通認識はあるということとございますので、その辺りはご心配なくというふうに思っております。

それから併せましてですね、当然中世のことをしっかり考えるということはその後続く、近世・近代についても、しっかりそれを意識をしながら議論をしないと、これはもうスカスカの状態になると私も思っていますので、そのあたりは注意しながらより豊かな歴史像を考えていくと、そういうことを考えていきたいと思っていますので、どうぞ岡田先生、ご安心いただけたらと思います。

榎垣田副会長 岡田委員は何かありますでしょうか。ありがとうございます。

あの通史ということと課題である旧石器、縄文、弥生もでございますので、ってということだと思えますけれども。まだ堺ミュージアム全体のイメージ概念といえますかそれがこれからだということですので、例えばここもそうですし美原のミュージアムはどうするんだとか、堺市にはいろんなその文化施設がありますので、そういうものも全部束ねるような形で堺ミュージアムとかっていう言葉とか概念がこれで出来上がるのかもしれませんが、その辺は堺市の方の具体的な取組を待たないと、具体的などころまでは踏み込みにくいのかなってところも思った次第でございます。

少し時間的には余裕があるようなのですけれども。この共同研究につきましては基本的な問題とか自分が進めていかなければならないこともあるでしょうから、また新年度の中で具体的なお話しをお聞きして、意見を出すことにしたほうがいろいろな意見が出やすいと思います。今回はこのくらいのことでよろしいですね。ありがとうございます。とにかく走り出すことが重要だと思いますし、よろしく願いいたします。

そうしましたら、本日の議事は以上でよろしいでしょうか。

事務局の方から最後に何かございますでしょうか。

司会（岸補佐） 委員の先生方、長時間にわたるご協議、ご意見、誠にありがとうございます。本日委員の先生方からいただきましたご意見やご提案を踏まえまして、魅力ある展示、わかりやすい展示を今後めざしてまいります。

また堺の中世共同研究につきましても、いただきましたご意見やご提案を踏まえまして、わかりやすく

効果的に堺の中世を描けるようにしてまいりたいと思っております。

それでは閉会にあたりまして、須藤館長よりお礼のご挨拶を申し上げたいと思います。館長よろしくお願いたします。

須藤館長 はい。今日はどうもありがとうございました。この「堺のくらしと風景」、非常に私も構成がうまくできているなと思っています。ガラス乾板のカメラで撮った写真がすぐ見えるような構成で、150年間の歴史が実物の写真で感じられるんで非常に面白く見ております。とにかくわかりやすい、子どもも老人も、すぐ、ものが何であるのかってことをね。私は一目見てわかるような、それを補うものとしての解説の文章というものに工夫しなきゃいけないとずっといってきました。物をわからない、その時代的背景がわからないようなものを並べておいたって、子どもたちにとっても困るし、知らない文化で育った親たちが来たってわからないものとしてはね。やっぱりこれからますます工夫しなきゃいけないと思いますし、それから写真が今回非常に効果的に使われていたと思います。ああいう写真というのは、民間に無尽蔵にあるんだと思うんですよ。そういうものを、当博物館が戦略的に、堺の写真のコレクションというものを、一つのデータベースに作る方針をたてて、今後関わったらいいかというようなことも含めて、宿題をいただいたと思います。

それから共同研究ですけども、皆さん突然共同研究がスタートしたといわれて、じゃあ新しいミュージアムとどう関係すると疑問を持たれたと思います。ミュージアム構想というのは、現段階ではある時にはちょっと先になるよ、とかある時にはいや博物館創設 50 周年記念だから 2030 年だとか、そういうのが突然出てきたり、行ったり来たりしているのです。従って、構想に関してはまだ具体的ななどいうものを造るのかを皆さんに紹介できるような枠組みというのは出来上がっておりません。ただ、来年度中にはおおよそできるとは思いますけど、基本はこの博物館と堺 アルフォンス・ミュシャ館ともうひとつ、堺市が今持っている文化財を総合的に表現する、発信する施設としてのミュージアムを考えているようです。ですから巨大なものになると思うし、ここの跡地をどうするかということに関しまして、それと並行して考えないといけない問題だと思います。建設場所も先ほどから出ていますけどもそうなるかということは決定されていない。いろんな問題があるようでございます。それと共同研究とは私は分けて考えています。

共同研究というのはうちの学芸員が中心になって、自分たちが今専門として研究してきたこと、それを成果として論文に書いて展示、企画展でいろいろやっている。そういうものを通して、じゃあ自分が今までの研究の守備範囲と違った分野の研究者と、堺の中世という時代に焦点を当てて、ある中において自分の研究を活かし違う分野の研究者たちと議論しながら、新しい自分の堺の中世像を自分なりに作っていくことだと思っている。そういう研究会を続けていく過程においてミュージアムの展示とどう結びつくのかということをおそらく考えていけばよい。共同研究の結果というものが展示に反映されるのであって、展示をするための共同研究ではないという風に私は理解しています。ですから、こんなことをいったら失礼ですけども、自分の研究の発表する、論文を書く場というものを広げていくのだということです。学会での発表の機会というのはあんまり恵まれていないと私は思うのです。学芸員は他流試合というのですか、まったく分野の違った人たちと一緒に研究会をするというそういう経験がないのです。この 3 年間の共同研究会を通して、経済史の先生とかあるいは都市文化史の先生とか、そういう違った分野の先生方の研究成果を自分の今の研究とどうコミットするのか連関するのかということを通しながら、自分の研究の守備範囲というものを広げテーマとする、そういう経験にしていきたい。その成果、結果が

展示に活かせる部分は活かしていく、そういう位置付けを共同研究に対して期待している。そのようにご理解ください。将来、博物館はどうなるんだろうと非常にご心配、大きな問題です。市が決断しなければならぬこと、ロードマップを作って粛々とオープンに向けて、基本設計、実施設計と進めていきます。

2030年までには7年間しかなくかなりタイトであります。共同研究は3年間で研究の進化をめざします。そういう風に考えております。

それでは最後になりましたけれども、今日の堺市博物館協議会をもちまして、この協議会の委員をご退任される方がおられます。それは伊藤廣之委員でございます。先生におかれましては、本館の活動を、一応6年の任期ということでもありますけど、それ以上に、長年にわたりましてご支援ご協力を賜りました。私の方からも心から感謝申し上げますと同時に、本館のスタッフ一同も衷心よりお礼を申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。ありがとうございました。今後とも、このご縁に感謝し、よろしくお付き合いのほどお願いいたします。本当にありがとうございました。

司会（岸補佐）　ありがとうございました。

これもちまして本年度第2回堺市博物館協議会は終了いたします。なお来年度の協議会につきましては、改めまして事務局より日程調整をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。それでは本日は誠にありがとうございました。